

# *erudio 18*

国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター通信 2013.3

Iwate University : University Education Center

## Contents

- |    |            |
|----|------------|
| 2  | 退任にあたって    |
| 4  | 運営委員会      |
| 5  | 入試部門       |
| 6  | 全学共通教育部門   |
| 8  | 教育改善部門     |
| 10 | 専門教育等連携部門  |
| 11 | 学生支援部門     |
| 13 | キャリア支援部門   |
| 14 | 委員会及部門会議名簿 |

# 退任にあたって



## 退任のご挨拶

なが の しゅんいち  
**長野 俊一**

大学教育総合センター 副センター長  
(教授・人文社会学部専任担当)

この度、青天の霹靂と言うべきか、人文社会学部長就任に伴い、副センター長の職を任期半ばで退くことになりました。

なんらお役に立てないまま舞台から退場するのは心残りではありますが、退任に当たって、「何か書き残していく」ということですので、思いつくまま、数言を費やすことにいたします。

何はさておき、強烈な印象として残っているのは、本センターが抱える仕事量の多さです。中期目標や年度計画に書き込まれている多種多様な事業以外にも、日々こなさなければならないルーティンの課題がなんと沢山あることでしょう。まさに、休む間もなしといった状態です。幸い、関係者各位のご尽力、とりわけ専任教員と事務職員の超人的(誇張ではなく実感です)努力によってセンターの運営が保たれてきてはいますが、このいわば「臨界状態」をこのまま放置しておいてよいとは到底思われません。折しも、過日、教育研究支援施設等再編の答申案が示されました。案を見る限り、本センターの将来に、光明を見出せるというより、なんとも不吉な暗雲が立ちこめているとの感想を抱くのは果たして私一人でしょうか。大学全体の教育に責任を負うセンターの重要性に鑑み、本組織のパワーダウンだけはどうしても避けてもらいたいと切に願わずにはいられません。

一方、この間、兼務教員として、さまざまのシンポジウム、懇談会、研究集会、ワークショップに参加する機会に恵まれ、そこで学び得たものは少なくありません。紙幅の関係で詳述は叶わないものの、個々の大学、個々の教員が取り組んでいるあれこれの試みの中には、すぐにでも、本学で、あるいは個別の授業で適用可能なお手本が見つかったものです。実際、今年度の授業で早速導入して手応えを感じたものもいくつあります。大学教育の質の改善が声高に叫ばれる昨今、こうした授業実践におけるマイナーチェンジの地道な積み重ねこそが重要だと再確認できました。

千載一遇のチャンス、こんな機会は最初で最後でしょうから、口幅ったいのは百も承知で言わせてもら

うと、私は、この世代にはしては珍しく、モスクワで700時間にも及ぶロシア語教授法(文学教育や独自の言語学的ロシア地域研究を含む)の厳しい訓練を受けてきました。いま思えば、この時の経験がその後の教師生活において有形無形の財産になっているような気がします。教授法を侮るなけれ! 教育力の充実に向けて本センターが提供する多彩なメニューに面倒がらずご参画を! そうすれば、必ずや、大学教員としての「アハ・メント」、私流に翻訳すれば「(目から鱗の)気づき」を体得できるはずです。「気づき」や「ふりかえり」は、学生にとってというより、われわれ教員にとってこそ大切です。組織としての体制強化は言うまでもなく、一人ひとりが教育力向上に意識的に取り組むこそが、教育の「質の保証」の第一歩ではないでしょうか。

もう一つ実感し得たこと。それは、部局を問わず、全学共通教育に熱心な教職員(教員だけではないことを強調しておきます)が本学には少なからずいるということです。センター関連のいろんなイベントや会議に参加してみて、このことを肌で感じられたのは幸いました。その英知と熱意を結集すればものごとは前に進むはず。管見によれば、その際重要な行動原則はただ一つ—「やる気のない者は、やる気のある者の足を引っ張らない」。この単純だが尊い精神を守りさえすれば大概の事態は改善できる、と知ったのは、もう四半世紀以上も昔のことです、それ以来、密かに自分のモットーともしてきました。

以上、勝手放題書き連ねさせていただきましたが、今後は学部の側から本センターの動向を注意深く見守りながら、わずかでも力になればと思います。

最後に、在任中にお世話になった多くの関係者の方々への衷心からの感謝の意を表して、副センター長退任のご挨拶といたします。深謝。



# 退任にあたって

## 大学改革への一歩は？

さとう りょう  
佐藤 瀬

大学教育総合センター 特任教授

工学部教員の定年退職(平成22年3月31日)までの2年間は副センター長・共通教育部門長として大学教育総合センターの兼務教員であった。翌日から引き続き、大教センター業務の支援を担当する特任教授を委嘱され、以来3年が経過した。兼務教員期間を含め5年間も大学教育総合センター業務に関わったことになる。

それまで、大学教育総合センター特任教授は毎月開催の「センター会議」に出席し、センター運営委員会の議題を整理して若干の意見を述べるだけで、任務としては軽微であったが、各種行事や講演会等への参加をはじめ部門会議やスタッフミーティングにも出席し意見を述べることになり、任務が増強された。

その間、玉真之介前センター長から高畠義人センター長への交代、さらには兼務教員の後藤尚人人文社会科学部教授の退任という重大な出来事があった。特に後藤教授はそれまで本学の共通教育を7年間にわたって支え続け、本学の共通教育の運営に、センター発足当時から実質的に貢献し、さらには共通教育と教育改善の各部門長を歴任するなど、センターの重責を担ってきた。そのような兼務教員を失う事は大きな損失であった。その結果、センター業務を理解し、運営できる教員は江本理恵専任准教授ただ一人になった。これは大学教育総合センターにとって一大事である。しかし、大学教育は継続されなければならず、教職員一丸となってこの困難を乗り越えた。特に、欠員の専任教員が配置されない状況下では江本専任教員に大きな負担となったが、持ち前のバイタリティーと明晰な能力を発揮して、これまで以上に活発に運営や業務活動を展開し続けて、今日に至っている。

ところで、大学改革が呼ばれるようになってかなりの時間が経過している。本学に学ぶ学生がどのような特徴ある教育が受けられるのか、どのような能力を身に付けて社会に貢献できるようになるのか、今までに大学の質保証が試されている。

大学の質保証はそもそも何に基づくべきか？社会が求める大学卒業者の能力は多種多様ではあるが、専門的な知識や能力はもちろん、十分な社会性と豊かな人間性を有し、幅広い教養を身に付けていくことである。

これは教わるものではなく自ら学ぶべきもので、それ故、大学においては、その基礎となる教養教育の重要性の再確認とその拡充が求められる。しかし、残念ながら本学ではこの根本的な課題に対して旧来的な議論に終始している感が否めない。改めて、本学の教育の特徴は何だろうか？本学が目指す大学教育とは何だろうか？

江本専任教員の尽力で、三つのポリシー(Admission, Curriculum, Diploma)が3月にも策定されることになった。この三つのポリシーが揃ってはじめて、大学がどのような学生を求め、どのように教育してどのような能力を有する卒業生を社会に送り出すかを明確に示すことが出来る。三つのポリシーの策定は大学改革のまずは第一歩である。大いに期待したい。

ところで、法人化後全国の国立大学から発表される研究論文数が減少しているとの気がかりな報告がある。これは由々しきことで、大学の本質をなおざりにして経営に軸足を置くならば本末転倒と言わざるを得ない。いよいよ、岩手大学が進むべき方向を明確に示す時がやって来た。



特任教授の退任まで、入学以来50年間、本学キャンパスに通い続けたことになる。今後は別の形で本学の教育に微力を尽くしたいと思う。

(平成25年3月4日)

# 運営委員会

大学教育総合センター長 高畠 義人

## 「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」

昨年度から検討していた、学部、学科、課程、コースのそれぞれのレベルにおける「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」の最終案を2月開催の運営委員会で、決定しました。最終案決定までの間には、11月に行ったブラッシュアップセミナーへの参加によるブラッシュアップや研究科の「学位授与の方針」等との整合性を確認しました。これらの方針は、2月の教育研究評議会で承認されました。この2つのポリシーの決定に伴い、すでに策定している「入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」の整合性を入試部門会議で現在確認しているところです。また、関連して各学部で作成したカリキュラムマップやカリキュラムリストについては、次年度に全体的な確認をすることとしましたが、カリキュラムマップについては、新入生に対し各学部で活用することとしました。

## 成績評価ガイドライン

今年度前期から検討していた各学部の成績評価ガイドラインに関して、12月の運営委員会で最終案を決定しました。また、成績評価ガイドラインに沿った成績評価が行われていることの検証に関して、工学部で作成している「授業実施報告書」が紹介され、他学部で検討する際の参考としました。

## 全学共通教育に関する事項について

全学共通教育部門会議で審議・了承した、全学共通教育の「教育目的」及び「修得すべき能力」について、一部修正のうえ了承しました。なお、本項目は来年度の「履修の手引き」に掲載されることになっています。また、全学共通教育分科会のうち「公共社会」と「現代の諸問題」分科会の統合についても全学共通教育部門会議から提案があり、関係規則の改正も含めて了承しました。さらに、新設科目の提案があり、こちらも関係規則の改正を含めて了承しました。

## 東日本大震災被災者への経済的支援

東日本大震災被災者への経済的支援の一つとして、入試部門会議で審議・了承した平成26年度入学者の検定料免除について、先に決定している授業料免除等

と合わせて、平成25年度の経済支援策(案)について審議し、一部形式上の修正の上、了承しました。

## 休退学者減少のための対応策ならびにアンケート

学生支援部門会議から審議を依頼された事項で、休退学者減少の対応策として、1年次の成績配布時に、担任等から面談も含めて直接成績を手渡し、必要に応じて指導を行って欲しい旨の依頼が委員長からなされました。本対応策は一部の学部で行っているものを全学的に実施するものです。また、休退学者に対するアンケートの見直しが提案され、一部修正の上、了承されました。

## ラーニング・サポート・ルーム(学習支援室)の設置

リメディアル教育等の学修支援を充実させるための方策として、平成25年度から図書館にラーニング・サポート・ルームを整備することを決定し、その準備のために立ち上げたワーキンググループで現在具体的な案作りを行っています。また、関連して、学修支援を行うための嘱託教員についても決定しました。

## その他

平成25年度の学年歴及び学生主催の行事に伴う2日間の全学休講について決定しました。大学教育総合センターの25年度の年度計画について審議・検討し、また26年度概算要求事項として「総合学修支援システムの構築」を要求事項とすることを決定しました。12月7日には、全学共通教育シンポジウムを開催し、岩手大学全学共通教育の実施体制の現状と課題というテーマで話題提供と意見交換を行いました。また、3月18日には、学生による授業アンケートに関する意見交換会を開催し、授業改善のための授業アンケートの活用について、情報交換する予定です。

昨年度から検討してきた「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」を策定することができました。各学部のご協力に感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。

専任教員 岡本 崇宏

**平成24年度活動報告**

入試部門7年目の活動については、昨年度を踏襲する形で活動を行った。募集広報活動としては、東北地区新聞社連合主催の「2012 東北の著名大学進学説明会」に5月から6月にかけて7都市の会場に学部の応援も得、入試課職員とともに参加した。会場により多少の増減はあるものの、総数としては昨年度を上回る相談者(315人→349人、昨年比+34人、+10.8%)が本学ブースを訪ねてくれた。(詳細表1)

**■表1 2012 東北の著名大学進学説明会**

開催日	開催地	総入場者	本学相談数 (昨年)
5月11日(金)	八戸市	1,125	68 (51)
5月18日(金)	秋田市	354	16 (20)
5月19日(土)	宮古市	62	8 (3)
5月21日(月)	盛岡市	792	112 (109)
5月22日(火)	北上市	255	53 (63)
5月23日(水)	仙台市	1,243	54 (37)
6月8日(金)	青森市	645	38 (32)
計	7都市	4,476	349 (315)

宮古会場は、来訪者こそ8人と少ないものの昨年の被災者の親子の訪問が目に付いた。震災当時中学生であり高校進学後1~2年目で将来の震災支援(学費免除等)の質問が多数を占めた。

高校訪問については、地元岩手を中心に日々訪問を行うとともに、北海道、青森、秋田、宮城、静岡、愛知、大阪(説明会と合わせて)の高校・予備校延べ90校に訪問、また表1以外の29会場(北海道、宮城、栃木、東京、神奈川、静岡、愛知、大阪)で個別ガイダンスと本学紹介講演を行った。

**平成25年度センター試験全国概況、本学一般入試状況**

センター試験は過去2年連続して全国平均点が文理ともアップしていたが今年度は各科目大幅ダウンの年となった。受験業者(ベネッセ・駿台)予想では900点満点(5教科7科目)で文系マイナス40点、理系マイナス34点と全国的に志願者は弱気出願を強いられる年度となった。各受験業者の志望動向集計によると本学の出願予定者(センター試験自己採点集計で本学を第一出願希望大学とした者)の平均点は全国平均ほど

ダウンしておらず、例年以上に上位成績層による個別入試となることが予測からみられる。この結果昨年度一般入試前後期合わせて3,083人の志願者が2,953人と130人の減となった。県別状況では、昨年度に続き減少している県では、北海道が後期で26人減、地元岩手は前期38人減、後期36人減となった。また志願者数が昨年度増加した青森が前期14人減、後期23人減、秋田が前期21人減と減少した。一方昨年度増加に転じ継続して増加したのは宮城で前期40人増であった。

**■表2 本学一般入試出願状況**

本学全体	前期	平成24年度			平成25年度			
		募集人員	志願者	志願倍率	募集人員	志願者	志願倍率	
		人文社会科学部	115	243	2.1	115	213	
	教育学部	136	365	2.7	136	474	3.5	
	工学部	250	508	2.0	250	498	2.0	
	農学部	148	497	3.4	148	386	2.6	
	計	649	1,613	2.5	649	1,571	2.4	
本学全体	後期	人文社会科学部	50	253	5.1	50	266	5.3
		教育学部	47	401	8.5	47	512	10.9
		工学部	62	614	9.9	62	419	6.8
		農学部	31	202	6.5	31	185	6.0
		計	190	1,470	7.7	190	1,382	7.3
			839	3,083	3.7	839	2,953	3.5

**アドミッションポリシー**

入試部門会議では、大学として「学位授与の方針」と「教育課程・編成の方針」が決定したので、「入学者受入方針」について、前者2つの方針との整合性を確認した。

**平成24年度募集広報活動を終えて**

遠方の説明会(東北以外)に行くほど相談者は少ないものの事前に本学を詳細に調べて来訪する生徒、保護者が多かった。特に関東(東京、神奈川、栃木)では保護者が岩手県出身で今は首都圏で生活しているものの、「安心して一人暮らし出来る街、学間に相応しい落ち着いた街、穏やかな人の集う街盛岡にある岩大だから」本学に子どもを進学させたいとの声を聞くことが何度もあった。これらのこともあり、遠方の会場説明会にも引き続き参加し、合わせて国立志向の高い高校について訪問を継続して行い、岩手大学の教育環境と教育資源の豊富さを伝えたいと考える。最後に1年間ご協力ご支援いただいた全学の教職員の皆様に感謝申し上げます。

# 全学共通教育部門

部門長 横山 英信

## 分科会統合により新たに「人間と社会」分科会が発足します

「公共社会」分科会と「現代の諸問題」分科会の統合により、平成 25 年度から新たに「人間と社会」分科会が発足します。

全学共通教育では平成 18 年度に「分科会」方式を導入しました。同方式は、岩手大学の全教員を、各自が所属する学系・学部・部局とは切り離して、専門分野が近く、それほど大人数でないグループ=「分科会」に配置させることによって、全学共通教育を全教員の関与によって行おうとするものです。この下で科目区分「人間と社会」に属する諸科目は「公共社会」「現代の諸問題」の 2 分科会がその開講の責任母体となってきました。

ただ、この間、①各教員がどの分科会に所属するかの基準が必ずしも明確でなかったために、同じ名称の科目を担当する教員が「公共社会」と「現代の諸問題」の 2 分科会に分かれ、時間割編成の際の調整に手間がかかる、②教員の退職・転出によって「現代の諸問題」所属の授業担当教員が減少する、という問題が生じてきました。そのため、両分科会を統合した方が「人間と社会」の諸科目の開講を機動的に行えるとの判断から統合を行ったものです。

「人間と社会」の諸科目は、平成 25 年度から、新分科会所属の教員が従来以上に緊密な連携を行う上で開講されます。

## 全学共通教育の実施体制見直しについて

上でも触れたように、現在の岩手大学の全学共通教育では「分科会」を基礎単位とした実施体制がとられています。これは全学を挙げて共通教育を行う上で大きな意義を有していますが、一方で「分科会」は学部・部局等の所属が異なる教員で構成されているため、教員間の日常的な意思疎通上の困難があり、学部の専門教育に比してその運営体制が弱いという指摘が出ています。

これを踏まえ、全学共通教育部門では、分科会ごとにその運営に責任を持つ学部を定めるなどの方策を選択肢の 1 つとしつつ、より充実した全学共通教育に向けて、現在その実施体制の見直しを検討しています。

## 平成25年度の新設科目について

全学共通教育科目として平成 25 年度に以下の 2 科目が新設されます。

### ①「異文化理解と実践」(高年次課題科目、前期木曜 3・4 校時)

同科目は、日本人が異文化に接する時に必要な知識を習得するとともに、異なる文化的背景を持つ人たちと国内または国外で積極的に交流・協力していく実践的な能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とします。平成 23 年度入学者から対象としますが、それ以前の入学者が受講した場合は「日本の文化・社会と国際ボランティア」として認定します。

### ②「科学・技術と現代社会」(「人間と社会」、後期木曜 3・4 校時)

同科目は、とくに文科系学生を対象として、現代社会と科学・技術について多角的なものの見方を身につけてもらうために、従来の総合科目「科学技術と現代社会」の内容を一部改編し、開講枠を総合科目から「人間と社会」に移したものです。平成 24 年度以前入学者が履修した場合は総合科目「科学技術と現代社会」として認定します。



# 全学共通教育部門

## 第3回岩手大学全学共通教育シンポジウムが開催されました

2012年12月7日(金)午後に岩手大学学生センターA棟G 29講義室にて、第3回岩手大学全学共通教育シンポジウム「岩手大学全学共通教育の実施体制の現状と課題—安定的・継続的な実施のための全学的体制づくりに向けて—」が開催されました。

全学共通教育シンポジウムは、2010年度に第1回(全学共通教育の意義と役割)が、11年度に第2回(専門教育と全学共通教育の連携)が開催されていますが、これら2回の成果を踏まえて、今回は全学共通教育の実施体制が抱える問題に焦点を当てました。

当日は、藤井克巳学長の挨拶のあと、まず、横山英信・大学教育総合センター全学共通教育部門長から、岩手大学の全学共通教育をめぐる諸問題(①教養科目の開講数の減少とクラスサイズの大規模化、②総合科目の位置づけの曖昧化、③授業担当者確保に関する責任体制の不明確化)が報告されました。

次に、弘前大学21世紀教育センター長の木村宣美教授から弘前大学の21世紀教育(=全学共通教育)の実施体制に関するお話を頂きました。弘前大学では教員全員に教養科目担当を義務づけ、2科目を必ず登録させるとともに授業の基準担当時間を設けているこ

と、各科目ごとに主任(=責任者)を選出する学部を明確にしていることなど、岩手大学の全学共通教育の実施体制を再検討する上でとても有益な内容が報告されました。

その後、実施体制上の問題を具体的に把握するため、「現代の諸問題」分科会代表の三井隆弘准教授、「環境」分科会代表の河合成直教授、総合科目「科学技術と現代社会」代表の小野寺英輝准教授から、各分科会・科目で実際に生じている問題と解決の方向性についての御報告を頂きました。

以上を受けて、参加者間の意見交流に移りました。そこでは、授業実施上の責任体制のあり方、全学共通教育科目担当と大学院科目担当との間での負担の公平性、全学共通教育科目と専門基礎科目との関係、などについての議論が行われました。

シンポジウムの終了間近に地震が発生するというアクシデントがあったものの、岩手大学の全学共通教育を安定的・継続的に実施していく上で改善すべき点は何かを考える上で、有意義なシンポジウムになりました。



第3回岩手大学全学共通教育シンポジウムの様子

# 教育改善部門

専任教員 江本 理恵

## 研修・WSの開催

今年度後半には、下記のような学習会やワークショップを実施しました。今年度の大学教育総合センターの課題の1つに「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」を構築することができました。したがって、ワークショップ等もこれらの方針のためのものを計画しました。また、愛媛大学から「研修支援」のお話をいただきましたので、FD・SDセミナー in 東北として、職員向け、教員向けの2つのプログラムを「支援」していただきました。その他、学生支援部門と連携して、「発達障がい学生の修学支援」に関する学習会も開催しました。

## 【SDコーディネーター( SDC )養成講座】

日時：平成24年11月3日(土) 10:00～17:00

会場：学生センターA棟 G22教室

講師：秦敬治氏(愛媛大学教授)、米澤慎二氏(愛媛大学)、阿部光伸氏(愛媛大学特任助教)

概要：SDCとは、SDの実践的指導者のことです。本セミナーでは、スタッフ・ポートフォリオ(職員業績録)の有益性をワークショップ等を通して体験し、大学職員マネジメントに与える影響や効果を学びました。

## 【授業デザインワークショップ入門】

日時：平成24年11月6日(火) 15:00～17:00

会場：学生センターB棟 多目的室

講師：佐藤浩章氏(愛媛大学准教授)、山田剛史氏(愛媛大学准教授)、大竹奈津子氏(愛媛大学助教)

概要：本セミナーは、学生の主体的な学びを引き出すための「多様な講義法(アクティブ・ラーニング等)」に関する内容を中心に、ワークショップスタイルで行われました。

## 【3つのポリシー・ブラッシュアップ・ワークショップ】

日時：平成24年11月6日(火) 13:00～14:30

会場：学生センターA棟 G22教室

講師：佐藤浩章氏(愛媛大学准教授)

概要：各学部で構築中の「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」について、「見直しポイント」を講師から示していただいた後、お互いの「方針」を読み、意見交換を行うワークショップを行いました。このワークショップは、同じ内容で11月21日にも実施しました(講師：江本理恵)。



## 【学生による授業アンケートに関する意見交換会】 (予定)

日時：平成25年3月18日 15:00～17:00

会場：学生センターB棟 多目的室

講師：関内隆氏(東北大学教授)

## 入学前教育の実施

大学教育総合センターでは、運営委員会の下に入学前教育実施小委員会を設置し、推薦・AO・社会人入試合格者を対象とした入学前教育に全学体制で取り組んでいます。

平成24年度の入学前教育の内容は、「読書レポートの作成」と「e-Learningを利用した英語・数学の自主学習」です(工学部のみ数学のe-Learningを必修化)。生徒は、各学部+センターから推薦された15冊の課題図書の中から1冊の本を選び、読書レポートを作成します。生徒には、提出したレポートに対して300字程度のコメントが返されます。



# 教育改善部門

## 平成24年度 入学前教育 読書レポート提出状況一覧

2013/03/04  
入学前教育実施小委員会

推薦学部	書籍名	人社	教育	工	農	人社(AO)	合計(通)
人	100年の難問はなぜ解けたのか	2	3	9	1	1	16
	働くということ	3	0	3	0	2	8
	タテ社会の人間関係	8	2	2	0	1	13
	科学の世界と心の哲学	3	0	1	0	1	5
教	遠野物語へようこそ	6	10	5	0	1	22
	新編 教えるということ	2	26	0	1	0	29
	思考の整理学	7	12	9	2	1	31
工	ゾウの時間ネズミの時間	1	6	10	3	1	21
	低炭素社会	4	0	16	1	0	21
	働かないアリに意義がある	4	11	21	11	0	47
	困ります、ファインマンさん	1	0	5	0	0	6
農	キリマンジャロの雪が消えていく	1	1	3	5	0	10
	科学は誰のものか	0	0	5	2	0	7
	科学者という仕事	0	0	6	1	0	7
セ	ボローニャ紀行	2	2	2	1	1	8
合計(通)		44	73	97	28	9	251
提出者数(人)		44	71	95	28	9	247
対象者数(人)		44	71	96	28	9	248
提出率		100%	100%	99%	100%	100%	99.6%

## 学生による授業アンケート

教育改善部門では、全学共通教育科目を対象に、いくつかの授業科目を除いて、2年に1回のペースで学生による「授業アンケート」を実施しています。平成24年度は前期開講科目、平成25年度は後期開講科目が授業アンケートの対象科目となります。

授業アンケートの結果は、個々の授業担当者に返却する他、部門会議で作成した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」を選出しています。

平成24年度前期の優秀授業科目は以下の通りです。

平成25年1月30日には、全学共通教育優秀授業科目の表彰状の授与と懇談会を行いました。

## 平成24年度前期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧

### 人間と文化

0008	心の理解	早坂 浩志
0013	欧米の文学	中里 まき子
0001	哲学の世界	音喜多 信博
0019	大学の歴史と現在	江本 理恵

### 人間と社会

0052	対人関係の心理学	川原 正広
0051	対人関係の心理学	田村 達
0029	市民生活と法	深澤 泰弘
0033	憲法	江原 勝行
0053	キャリアを考える	中村 謙一

### 人間と自然

0066	物質の世界	吉澤 正人
------	-------	-------

### 情報基礎

0120	情報基礎	松館 敦子
0114	情報基礎	中西 貴裕
0118	情報基礎	松館 敦子

### 健康・スポーツ

01014	サッカー	鳴尾 直軌
01063	テニス	吉田 実
01065	ニューススポーツ	若林 美帆
01016	バレーボール	若林 美帆
01022	バレーボール	若林 美帆
01030	バドミントン	清水 茂幸
01033	サッカー	鳴尾 直軌
01062	バレーボール	小笠原 義文

### 英語総合

0320	英語総合I(中級)	伊東 栄志郎
0331	英語総合I(上級)	Gavin Young
0354	英語総合I(上級)	三浦 黙夫
0317	英語総合I(上級)	Hareyama James Franciscus
0332	英語総合I(上級)	松林 城弘
0322	英語総合I(初級)	星野 勝利
0319	英語総合I(中級)	佐藤 智子
0304	英語総合I(初級)	小林 葉子

### 英語コミュニケーション

0324	英語コミュニケーションI(上級)	Gavin Young
0371	英語コミュニケーションI(中級)	ASANO ROBERT KEN
0341	英語コミュニケーションI(上級)	Gavin Young
0312	英語コミュニケーションI(初級)	Blair Benjamin Reed
0369	英語コミュニケーションI(中級)	Blair Benjamin Reed
0327	英語コミュニケーションI(中級)	ASANO ROBERT KEN
0329	英語コミュニケーションI(初級)	Hareyama James Franciscus
0326	英語コミュニケーションI(中級)	Ishikawa Peggy Marrie

### 英語以外の外国語

0452	初級中国語(入門)	呉慧敏
0471	上級日本語B	岡崎正道
0423	初級フランス語(入門)	横井雅明
0446	初級ロシア語(入門)	長野俊一
0466	初級韓国語(入門)	立花春佳
0462	初級韓国語(入門)	崔在縉



平成24年度前期全学共通教育優秀授業科目表彰式にて

# 専門教育等連携部門

部門長 松川 優明

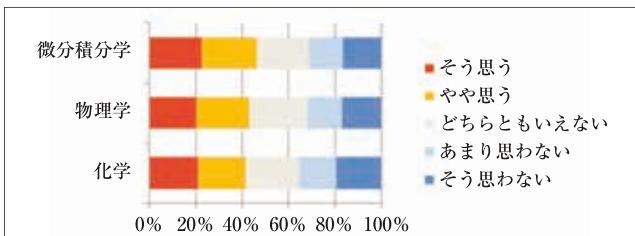
## 専門基礎教育の充実に向けた検討

本部門では、専門基礎教育の充実に向けた検討を行うために、工学部学生を対象に専門基礎科目の習熟度別クラス編成に関する意識調査を7月及び2月に実施しました。その集計結果を報告させていただきます。

「全学共通教育科目の英語では、初級・中級・上級の習熟度別のクラス編成を行っています。あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が良いと思いますか？」

(選択肢：①そう思う ②やや思う ③どちらともいえない ④あまり思わない ⑤そう思わない)

という問い合わせに対して、以下に示すように微分積分学Ⅰは、工学部学生（回答総数434）の約半数（47%）が、肯定的な回答をしています。



肯定的な回答の比率について微分積分学Ⅰの学科別のデータを紹介しますと、①再履修クラス54%、②応用化学・生命工学科50%、③マテリアル工学科47%が上位に位置しています。

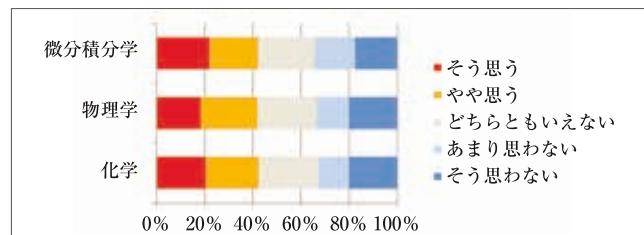
また、物理学の学科別のデータは、①応用化学・生命工学科56%、②マテリアル工学科50%、③機械システム工学科40%、化学の学科別のデータは、①マテリアル工学科53%、②社会環境工学科47%③機械システム工学科46%です。

成績評価との相関を調べるために、H24年度前期の成績評価比率のデータを参考に「不可」の比率の高い順に学科ごとに並べると、微分積分学Ⅰ：①再履修クラス、②電気電子・情報システム工学科B、③社会環境工学科、物理学：①社会環境工学科、②機械システム工学科、化学：①社会環境工学科、②マテリアル工学科となります。（下線の学科は、上位3位までに含まれているもの）担当教員の成績評価基準が教科単位で統一されているとは限らないので、習熟度クラス編成の肯定的な回答比率と同一科目における「不可」の比率に相関があるとは一概に言えませんが、数学や化学の科目において、相関があるように推定できます。

授業担当教員の因子を無視すると、習熟度別のクラ

ス編成を希望する比率の高い科目と学科の性格は相関があるように思えます。例えば、マテリアル工学科や応用化学・生命工学科は、学科の性格（数学を頻繁に使う学科という印象はありません）を考慮するとあまり数学が得意でない学生が比較的多く入学しており、そのことが恐らくアンケート結果に反映していると予想されます。また、微分積分学Ⅰの再履修クラスの比率が最も高いのは、成績が不振で単位認定がされない学力不足の学生の意向がストレートに反映されているものと思えます。同様に、応用化学・生命工学科は化学を勉強する学科という印象が強く化学の学力が高い学生は多いが、物理学を高校で深く勉強てくる学生は少ない、または物理の学力の高い学生は少ないと考えられるので、物理学の比率が高くなつたと推測されます。マテリアル工学科はすべての科目において、上位に位置していることは、予備校の入試データにより予想されているように入学希望者の学力平均が工学部の5学科の中で下位に属しているということと関係があるかもしれません。

次に「あなたが受講している専門基礎科目の習熟度別のクラス編成に対して、センター試験の成績を利用して実施することについて適当であると思いますか？（ただし、推薦入試の入学者はセンター試験の成績を口頭試問や調査書等の成績と読み替えてください。）」という問い合わせに対する結果を以下に示します。



科目の種類に依存せず、4割以上の学生が肯定的な回答をしている一方、3割以上の学生が否定的な意見をもっています。特に、センター試験以外に個別試験の結果を活用することなど適正に学力を評価することを要望していました。また、このアンケートの自由記載欄において、現在の英語科目の習熟度別クラス編成に関して興味深い意見がありました。現在の習熟度別クラス編成は、負担（クラスにより）が大きく公平性に欠ける、初級クラスでも十分難しい、上級クラスの「可」と初級クラスの「秀」などの成績評価基準に統一性が保たれていないのではないか。また、Pre-TOEFLはやらないでセンター試験の成績でクラス分けした方が良いなどの意見もありました。

# 学生支援部門

部門長 栗林 徹

## 学生指導担当教職員研修会及び課外活動サークルリーダーシップセミナー

平成 24 年 12 月 1 日(土)に学生センター A 棟を会場として全てのプログラムにおいて教職員と学生とが一同に会して実施しました。

参加者：教職員 23 名 学生 72 名 合計 95 名

内 容：①「ワークショップから探るリーダーシップ～リーダーシップって何だ！？～」

トラブルカフェシアター代表 遠藤雄史 氏

②「安全・安心な大学生活のために」

盛岡東警察署交通課長 田島直樹 氏

③「岩手大学における特別な支援を要する学生の現状と対応について」

岩手大学学生特別支援室コーディネーター 新村 眩 氏

④ワークショップ：「健常者と障がいを持つ学生とが協働できるサークル活動とは」



## 学長と学生との懇談会

○第1回：平成 24 年 6 月 27 日(水)

『第 40 回ガンジョンタイム』において、テーマを「岩手大学長と語ろう」として開催しました。

○第2回：平成 24 年 12 月 1 日(土)

サークルリーダーシップセミナーでの交流会でサークル代表者と活発な意見交換を行いました。

○第3回：平成 25 年 2 月 28 日(木)

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生 20 名の参加を得て、テーマを「岩手大学を選択した理由、岩手大学に入学して良かったこと」として開催しました。

## 大学情報を Twitter で発信

平成 24 年 11 月 26 日から学生支援課による Twitter の運用が開始されました。これにより大学生活に関する情報が手軽に確認できることになり、年度末にはフォロワー数が 800 名を超え、学生にとって大学情報の入手媒体として大いに役立っています。

## 上田地域活動推進会と学生との懇談会

平成 25 年 1 月 31 日(木)に昨年度に引き続き上田地域活動推進会の皆さまと学生代表(学生 4 団体、環境マネジメント、学生寮、等)とが意見交換を行いました。

推進会からは、Let's びぎんプロジェクトで発行した広報誌「うえだっしょ」の取り組みへの賞賛やゴミ出しルールの厳守や喫煙マナーの徹底などの要望が出され、双方にとって有意義な懇談会となりました。



## 寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成 25 年 2 月 15 日(金)に上田寮、3 月 19 日(火)に高松寮の代表者と学生指導担当教職員とが寮運営の在り方等について意見交換を行い、双方の思いが共有できた有意義な機会となりました。

## 東日本大震災被災学生への経済支援の実施

昨年度に引き続き、東日本大震災で被災した学生の皆さんへの平成 24 年度の経済支援として、検定料の免除、入学料・授業料の減免、岩手大学独自の奨学金の創設、寄宿料免除等を行いました。

## 学長賞及び奨励賞を授与

平成 25 年 3 月 15 日(金)に今年度の学長賞と奨励賞を授与しました。

今年度は、学長賞は個人 13 名、団体 1 団体、奨励賞は個人 20 名、団体 4 団体に授与され、全国大会でのサークルの活躍が目立ちました。

# 学生支援部門

## 学生特別支援室の活動結果

学生特別支援室運営会議では、修学上特別な支援を要する学生として今年度前期に9名、後期に10名を認定し、コーディネーターが中心となり、チューターの配置などの具体的な支援を行いました。

### ○学生特別支援室見学会の実施

平成24年4月26日(木)に学生センターA棟2階に完成した学生特別支援室の見学会を実施しました。

部屋には、視覚障害者用として、拡大読書器1台、据え置き型パソコン(画面拡大機能付き)2台、聴覚障害者用として、筆談用磁気ボード1台、電子メモパッド1台、ノイズキャンセリングヘッドフォン1台の他、仕切カーテン、非常時通報システム、プロジェクター、冷蔵庫、電子レンジ、電気温水器、エアコン、空気清浄機、テーブルなどを備え、コミュニケーションルームとしての機能も有しています。



学生特別支援室の様子

### ○オープンキャンパスで学生特別支援室を公開

平成24年8月7日(火)と10月20日(土)に行われたオープンキャンパスにおいて、学生特別支援室を公開しました。

当日は、高校生や父母等が見学に訪れ、本学の障がい学生への支援内容を知る良い機会となりました。

### ○保健管理センター教員と担任教員との連絡会での講演

平成24年9月10日(月)に行われた保健管理センター教員と担任教員との連絡会において、新村コーディネーターから発達障がいに関する講演と本学における発達障がい学生等への修学上の支援状況が説明されました。

## ○発達障がい学生への修学支援に関する学習会を実施

教職員を対象に発達障がいの正しい理解と対応についてを学ぶ機会として、外部の講師を招き、基礎編と応用編に分けて4回の学習会を行いました。

学習会にはいわて高等教育コンソーシアムを構成する他大学から多くの参加があり、障がいを持つ学生への修学支援の必要性が高まっていることを実感させる学習会となりました。

(基礎編)学習テーマ：発達障がいの理解と対応

1回目 平成24年11月28日(水)

2回目 平成24年12月3日(月)

3回目 平成24年12月13日(木)

講師：坂下史絵氏（岩手産業保健推進センター 臨床心理士）

(応用編)学習テーマ：富山大学における発達障がい学生への支援～実践から学ぶ～

平成24年12月21日(金)

講師：吉永崇史氏（富山大学学生支援センター アクセシビリティーコミュニケーション支援室 特命准教授）



### ○学生指導担当教職員研修会及び課外活動サークルリーダーシップセミナーでの講演

平成24年12月1日(土)に行われた標記のセミナーで新村暁コーディネーターによるワークショップが行われ、「健常者と障がいを持つ学生とが協働できるサークル活動とは」をテーマに教員と学生とが検討を行いました。

### ○バリアフリーマップの作成

学生ボランティアの協力の下、構内のバリアフリーマップを作成しました。

# キャリア支援部門

部門長 安田 準

## キャリア支援・就職支援の状況

東日本大震災の影響があった昨年と比べ、企業の求人や採用活動も復調し、学生から寄せられる就職内定状況も回復した。一方、公務員志望の学生数は相変わらず多く、10月になって民間企業へ進路変更を考える学生の就職相談等が増えた。

就職活動を控えた学部3年生等の就職ガイダンスでは、前年度卒業学生の就職内定率が93.6%という比較的高い数値が発表され、就職難が改善されたかの印象を学生に与えたのか、夏季休業前の学生参加者は少なかった。10月以降はいよいよ就職活動についての意識が芽生えたのか、参加者数も増加した。

3年生対象の学内企業合同説明会は、企業の求人活動が始まる12月1日(土)120社の企業と延べ849名の学生が参加して開催した。2回目は1月17日(木)・18日(金)の2日間で240社の企業と延べ1,176名の学生が参加した。当該説明会に併せて参加企業担当者と学部就職委員との名刺交換会も実施した。また、12月9日の関東圏での就職支援業者の主催する企業合同説明会を皮切りに、関東圏に2回、仙台市に3回学生を送迎するバスを無料で運行して、学生達の交通費の軽減を図った。

就職活動学生に対する就職相談体制は、昨年に引き続き専任キャリアカウンセラーのほかに授業日の午後、キャリア支援課に非常勤のキャリアカウンセラーを配置し、加えてヤングハローワークからも週2日、キャリアカウンセラーを派遣いただき、複数人の相談支援体制を整えた。なお、学生の就職活動の動きを見ると、依然として企業の採用活動の早期化は止まっていると思われる。

## 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

本学は北海道・東北ブロックの構成大学として「产学官連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」という取組で本事業に参加することとなった。年度の途中の10月16日から開始された本事業は、24年度の活動期間を勘案し、年度事業経費を5,922千円とした。現在、企業のニーズを把握するためにWEB企業アンケートを作成し、企業が求める人材像の調査を実施中である。この調査により産業界のニーズを的確に掴み、実りのある事業を進めていく。

大学生の就業力育成支援事業で立ち上げたジョブシャドウプログラムは、今年度は受入先に民間企業を増やし16名の学生が参加し実施した。事後報告会では受入企業にも参加願い、学生の感想を直接聞いていただいた。併せて、学生に参加満足度のアンケート調査をしたところ、最高値5.0の内平均で4.41という数値が示された。またジョブシャドウ普及活動として報告冊子の作成や12月18日(火)には、同じジョブシャドウの導入を計画している秋田大学、岩手県立大学と本学の事業を事例に情報交換を行った。

1月22日には、宮城県下の2つの企業から本学卒業生を講師として招聘し、就職活動前の1・2年生を対象にした「先輩が後輩に伝えるセミナー」を開催した。職業人となるために、大学生時代にやるべきことや過ごし方について、アドバイスをいただいた。

本事業の連携大学が事業を推進するために、北東北ブロック会議や全連携大学の全体会議に参加して情報交換を行なった。このほか、各大学のプログラムの事例研究のために、他のブロック会議や他大学に出かけた。

## 2012年度後期のキャリア教育科目的実施状況

本年度で6年目となる全学共通教育科目「キャリアを考える」は、今年度も前期300名、後期150名多くの学生が履修した。この講座は2012年度前期も含めて過去に何度も学生が選ぶ優秀授業で表彰されている。この講座では、学生たちは自分の将来のために自己を見つめ、先輩に学び、親から学ぶことにより、キャリアデザインを考えるヒントとして、これからの大學生生活の充実につなげている。

本年度で4年目となる、後期の集中講義「知財ワークショップ 副題：地場産業ブランド戦略論」は知財と地域の関係を探究しながら就業力と地元定着を実践的に学ぶ授業で、土曜日授業、产学官の講義、事業所訪問、グループワークなどが特長である。授業の最後の学生発表会には、履修学生のほか盛岡市商工観光部職員など約40名が参加し、授業を通じて产学官の交流を行った。

本学においては、キャリア教育科目の位置づけが不明確な状態であったことから、第5回のキャリア支援部門会議では、大学のキャリア教育導入母体として本部門がキャリア教育の企画・運営を担当し、授業の開講について積極的に関わることを確認した。

# 委員会及部門会議名簿

## 大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏 名	担当部局等
センター長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	長野俊一	人文社会科学部
入試部門長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川倫明	工学部
学生支援部門長	栗林徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田準	農学部
副学部長又は評議員	吉村泰樹	人文社会科学部
	遠藤孝夫	教育学部
	船崎健一	工学部
	古賀潔	農学部
教務関係委員長	山本昭彦	人文社会科学部
	菊地洋一	教育学部
	嶋田和明	工学部
	居在家義昭	農学部
学務部長	渡部徹	学務部

## 大学教育総合センターセンター会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏 名	担当部局等
センター長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	長野俊一	人文社会科学部
入試部門長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川倫明	工学部
学生支援部門長	栗林徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田準	農学部
専任教員	江本理恵	大学教育総合センター
	岡本崇宅	大学教育総合センター
学務部長	渡部徹	学務部

# 委員会及部門会議名簿

## 入試部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	高畠義人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本崇宅	大学教育総合センター
	吉村泰樹	人文社会科学部
兼務教員	土屋明広	教育学部
	伊藤歩	工学部
	庄野浩資	農学部
	家井美千子	人文社会科学部
	横山英信	人文社会科学部
	境野直樹	教育学部
各学部入試委員会 (正・副委員長)	我妻則明	教育学部
	平塚貞人	工学部
	水野雅裕	工学部
	倉島栄一	農学部
	木村賢一	農学部
入試課長	藤原昇	学務部

## 全学共通教育部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員		
	横井雅明	外国語分科会
	清水茂幸	健康・スポーツ分科会
	藤本忠博	情報基礎分科会
	中村安宏	思想と文化分科会
	神常雄	心と表象分科会
兼務教員	横山英信	公共社会分科会
	三井隆弘	現代の諸問題分科会
	西山賢一	生物の世界分科会
	八木一正	自然と数理の世界分科会
	柳岡英樹	科学技術分科会
	河合成直	環境分科会
	河田裕樹	人文社会科学部
各学部教務委員会	遠藤匡俊	教育学部
	嶋田和明	工学部
	伊藤芳明	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

## 教育改善部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	武井隆明	教育学部
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員	江本理恵	大学教育総合センター
	五味壯平	人文社会科学部
兼務教員 (学部選出委員)	後藤尚人	人文社会科学部
	宮川洋一	教育学部
	山崎浩二	教育学部
	松浦哲也	工学部
	吉野泰弘	工学部
	横井修司	農学部
	三浦靖	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

## 専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	松川倫明	工学部
専任教員		
	河田裕樹	人文社会科学部
兼務教員 (各学部教務委員会選出教員)	犬塚博彦	教育学部
	嶋田和明	工学部
	國崎貴嗣	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

## 学生支援部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	栗林徹	教育学部
	松林城弘	人文社会科学部
兼務教員 (各学部学生委員会選出教員)	ホールジェームズ	教育学部
	土岐規仁	工学部
	出口善隆	農学部
	白倉孝行	人文社会科学部
学部選出教員	菊地悟	教育学部
	海田輝之	工学部
	立川史郎	農学部
学生支援課長	佐藤祐一	学務部

## キャリア支援部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	安田準	農学部
	竹村祥子	人文社会科学部
兼務教員 (各学部就職委員会選出教員)	大河原清	教育学部
	高木浩一	工学部
	古賀潔	農学部
キャリア支援課長	大内正	学務部

# *erudio* 18

2013年3月発行



国立大学法人  
岩手大学 大学教育総合センター

Iwate University : University Education Center  
〒 020-8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 18-34

- 入試部門 tel.019-621-6926
- 全学共通教育部門 tel.019-621-6925
- 教育改善部門 tel.019-621-6924
- 専門教育等連携部門 tel.019-621-6925
- 学生支援部門(学生支援課) tel.019-621-6058
- キャリア支援部門(キャリア支援課) tel.019-621-6059

■ 部門共通 fax.019-621-6928  
電子メール uec@iuate-u.ac.jp  
Webサイト <http://uec.iuate-u.ac.jp/>



ganchan®